

「三豊市定住対策事業」

三豊市型ライフスタイルを实践

自分の人生に夢を描き、目標をもって生きていく、それを实践するステージが三豊市です。今月号は、すでにそんな人生ストーリーを歩み始め、三豊市型ライフスタイルのさがげとして、活躍されているご夫婦を紹介します。



高瀬町上麻の増田畜産(有) 緑ヶ丘牧場で働く、木村弥幸さん(29)と麻美さん(28)ご夫婦。家族構成は、ご夫妻と3歳と1歳のお子さんの4人家族です。牧場では豚の管理を任されており、充実した毎日を過ごされています。
(赤字は麻美さんのお話です)

三豊市に住んでみて

三豊市に来て何年ですか。今年で4年目です。

三豊市に来られたきっかけは。牧場で働きたいという希望を持っていて、山梨県の前職場で種豚をつくっていたことから、種豚の配達で増田畜産にはよく来ていました。社長と知り合って、話すにつれ、ここで働きたくなりました。

どこにお住まいですか。高瀬町二ノ宮地区です。この牧場から少し下った集落で、一軒家を借りて住んでいます。

現在のお仕事の内容は。簡単に言うと、豚肉をつ

くるということです。この牧場のすべてを任せられ、2,200頭の豚の飼育をしています。

県下でも4番目から5番目くらいの規模だと思えます。

三豊市での生活はどうですか。大型スーパーが出来てから、随分暮らしの便が良くなりました。衣料品や子どものおもちゃなど、買い物は高松とかに行っていたのが、地元で済むようになりました。

子育て支援の充実を三豊市に期待することは。両親が近くにいないので、土曜、日曜日も保育をしてもらえたらと思います。

子育て支援の充実を

今は、お子さんの保育をどのようにされていますか。昼間は、高瀬南部保育所に預けています。仕事は、6時か7時くらいまでかかりますので、5時半か6時頃に妻が迎えに行っています。

働きのながら子育てできる環境が大事ということですね。子育て支援として、ファミリーサポートセンターなどもありますが、利用料金を安くするなど、利用しやすい環境を整えたいと思います。



私たちのように、夫婦と子どもだけという家庭もあるのではないかと思います。ですから、子どものための施設とか、対応が優遇されていけば来やすいのではないのでしょうか。乳幼児の時から安心して預けられるところがあれば、助かります。

ほかに何か感じることはありますか。皆さんの車の運転が怖いですね。急に曲がったりして。車社会の県なので、子どもが学校に通い始めたら不安ですね。

子育てのことで、他に何かありますか。私たちのように、夫婦と子どもだけという家庭もあるのではないかと思います。ですから、子どものための施設とか、対応が優遇されていけば来やすいのではないのでしょうか。乳幼児の時から安心して預けられるところがあれば、助かります。

すくしてほしいと思います。また、土・日保育があれば、そちらに預けることも可能なのですが。

学校関係で何かあれば。

地元の小学校は生徒数が少なそうで、ちょっと心配しています。今、学校の統廃合が検討されているようですが、もし家から離れた学校に通うようになれば、スクールバスでの送迎してほしい。仕事もあるし、ふたりしかないのです。

女性の立場から

三豊に住んでみてどうですか。正直引越してき



正直引越してき た時は、不安だらけでした。

方言も分からないし。1年目は、本当にどうしていいのか、どこに買い物に行けばいいのかも分からず、本当に困りました。

田舎には古くからの習慣

などがあるかもしれないませんが、どうですか。気になることはありませんが、都会のように隣に誰が住んでいるのかも分からない社会は、どうなのかなって思います。田舎の隣どうあいつつすべしです。

奥様がここで一緒に働き始めたのは、いつごろですか。ここに来たときは、上の子がまだ小さかったので家でいました。初めて働いたのは、2年半くらい前からです。

ご主人は畜産や農業に夢をお持ちですが、奥様も同様の価値観で将来を見られていますか。畜産や農業でやっていくという、根本的な部分は同じです。

将来への夢

将来の夢や希望を持っていますか。自分の牧場を持ちたいと

思っています。それと、畑を借りて農業もやってみたい。幅広く米を作ったり、ジャガイモを作ったり。それを三豊市でやりたいということですか。

ネットワークや、いろいろな人とのつながりも出てきているので、今は香川県で思っています。もちろん、場所があれば、三豊市でも考えてみたいです。

この農場を任せられて、二人で協力して仕事をしているという点ですが、仕事に何かこだわりはありますか。おいしい肉をつくるという

若いふたりが三豊で暮らすと決めてがんばっています。二人の三豊っ子もすくすくと育っているようです。

お二人の話を聞いてみると、なんだかあったかい気持ちになりました。これからも力を合わせてがんばってください。



▼問い合わせ バイオマスタウン推進室 ☎73・3028